

尺八で自己の精神をみつめる

目的

- 単なる楽器として尺八を学ぶだけでなく、「禅」や「瞑想」も体験する。

効果

- 古くから伝わる日本の精神を、音楽文化を通して味わえる。

到達点

- 日本文化独自の、しっかりとした味わいと調和を実感する。



講師 田嶋直士
たじま ただし

略歴

尺八演奏家
大学卒業後、世界のトップソリスト・
琴吉流家元の横山勝也氏に師事。
直簫流(じぎしょうりゅう)を創設し
宗家となる。大阪音楽大学で教鞭。
東京・大阪に教授所をもつ。毎年、
東京・大阪を始め、国内外各地で
演奏会を開催。1990年、2007年、
文化庁芸術祭賞受賞。パナムジュー
クフェスティバル邦楽演奏コンクー
ル1位大賞、ドイツ大使賞、大阪
府民劇場奨励賞など多数受賞。
米国ニューヨークタワーレコードに
「田嶋直士のコーナー」が設置さ
れている。日本を代表する国際的
尺八演奏家。

advice points

- できれば生徒1人ひとりが尺八を所有するのが良い。
- 会場は音楽教室が望ましい。



事前学習

講師の指示により、事前学習は行わない。

ワークショップの流れ(2日間×2コマ/日)

- 頭髪の先まで「気」を入れるつもりで息を吹く演習
- 息の形(口の形)と、手のひらに息を当てる演習
- 講師の尺八演奏を鑑賞
- 気合を入れた構えの演習
- 息を吸い込み気合を入れる演習
- 箏と尺八で「春の海」の合奏演習
- 質疑応答。「尺八と人生」について講話

事後学習

音楽や休み時間に、自由に復習する。

…ワークショップを実施して…

講師の感想

尺八を吹くことが主要テーマではなく、「自分にとって何が最も大切なのか」ということを、尺八という素材を通じて考えるという難しい内容だったが、予想以上に理解してもらえた。「理解」のためには「体験」が何よりも大切である。自国の文化に触れ、その素晴らしさを実感するとともに、誇りをもって日本の精神性について考えるきっかけとして欲しい。

先生の感想

尺八という未知の世界のものを体験して視野が広がったのではないと思う。尺八は音を出すのが難しいので、技術的な指導より、講師の考え方を学ぶという内容で進めたのが、良い成果を生んだようだ。「何」をするかより「誰」に講師に来てもらえるかが重要だと思う。

生徒の感想

- 箏と合奏した「春の海」に深く感銘を受けた。尺八のもつ独自の音色が心に響いた。
- 「自分が99%で楽器が1%である」「集中力が大切である」などの考え方は、今後の生活やクラブ活動などに活かしていけるので受講してよかった。
- 集中力・想像力・表現力・気を入れて吹くことなど、技術以外のいろいろなことを教わり、楽器を演奏する時の心構えが変わった。日本の楽器や音楽に少し興味が出た。

より発展的な ワークショップを 実施するために

- 「春の海」以外の曲に挑戦してみる。
- 邦楽の特徴を洋楽との比較で考えてレポートを書く。
- 講師が出したテーマ「自分にとって何が最も大切なのか」を友達同士で話そう。